

アクト21

INFORMATION

特集
interview

女性の活躍を妨げる オールド・ボーイズ・ネットワークとは？

株式会社東レ経営研究所 DE&I共創部 部長 宮原淳二さんP2



データで見る男女共同参画

「さまざまな困難を抱える女性たち」P6

アクト21 NewsP6

イベントカレンダーP7

Arakawa+Action

こころと生き方・DVなんでも相談P8

▶ 荒川区公式YouTubeチャンネルでインタビュー動画公開中！



女性の活躍を妨げる オールド・ボーイズ・ ネットワークって？

オールド・ボーイズ・ネットワーク（以下、OBN）を知っていますか？ かつて男性社会だった組織や企業における古い価値観、暗黙のルール、職場環境等によって、これまで女性の活躍が妨げられてきました。OBNによって働きにくさを感じる女性や若者たちの現状、これからの管理職の男性はどうあるべきか、多様な人材が活躍できる職場づくりのヒントについて、さまざまな働き方改革を提言してきた宮原淳二さんにお話をうかがいました。

男性社会が生んだ古い価値観のルール

女性の活躍がなかなか進まない原因の一つとしてOBNがあります。OBNとは古い価値観をもった男性たちだけのネットワークのこと。過去の成功体験を引きずる管理職の

男性たちが、男性中心・男性目線の暗黙のルールや慣習で、女性や若い世代の男性も働きにくい職場環境をつくっています。具体的な事例として以下が挙げられています。

- 上司の顔色をみて忖度したり、根回しをしたりする
- 喫煙所や飲み会、休日のゴルフ場などで人事を決めてしまう
- 残業や休日出勤を強いる
- 電話応対や受付業務、雑用は無条件で女性にやらせる
- 派閥に入らないと出世できない

共通の成功体験を持つ男性だけのビジネスルールで圧力を掛けることで、女性だけでなく若い世代の男性も働きにくさを感じています。例えば、東京から大阪への出張の場合、朝早く家を出て夜遅くに東京に戻るとなると、体力的にとてもハードな日程となる。食事が早い人は仕事も早いという根拠のない価値観を押し付けられる。一斉メールが深夜や早朝、休日に送られてきて自分だけ返信できないと疎外感につながるなど、「24時間働けますか」という体質が未だ残っていて、改善されるには時間が掛かると言われています。

時間と体力を強いられる女性には対応しづらい

これらの事例は、男性であれば、上司の成功体験を聞き、同じような経験を積んで自分も管理職になりたと思う人もいるかもしれません。しかし、女性は家事や育児と仕事の両立、男性との体力差もあり、同じ行動を取ることが難しいでしょう。特にワーキングマザーは、夜の飲み会や休日の接待ゴルフなどには参加できず、自分がいらないところで物事が決まってしまう疎外感を味わうことが少なくありません。

OBNでは明文化されていないルールや仕事の進め方があります。言わなくても分かる、当たり前のことだと思っている男性上司は、仕事に必要なことを伝えず、「俺の言うことが絶対だ」と押し付けることで、女性や若者の活躍を阻んでしまっているのです。

家事や育児と両立させる女性が OBNで働きにくいと感じている

こうした古い考え方を持った人たちのネットワークは男性中心ですが、少数ながら女性もいます。男性顔負けに激務をこなして成功してきた女性の場合、OBNの男性と同じ価値観を持っていることがあります。そう

いう人は女性に厳しい傾向も見られ、マイペースで働く女性を見ると、私は子育てと両立させて、あるいは仕事に全てをかけて頑張ってきたのに、という思いからキツイ言葉を投げ掛けてしまうこともあるようです。

「コロナ禍をきっかけとしてOBNが変わっている

約40年前は専業主婦が多かったのですが、現代は夫婦共に仕事と家庭の両立が理想だと考える人の割合が増え、共働きが多くなっています。また、テレワークが広がり、家事や育児をしながら仕事をする環境が整ってきたことも後押しになっています。

OBNも時代とともに少しずつですが変わりつつあります。昔はお酒が飲める人が偉いという風潮があり、飲み会は2次会、3次会まで行くのが当然。「俺の酒が飲めないのか」という発言が横行していまし

宮原淳二さん

株式会社東レ経営研究所
DE&I共創部 部長

Profile
1989年 早稲田大学社会科学部卒業。
大手化粧品会社・資生堂に21年間勤務し多岐にわたる業務を経験。人事労務全般に携わる期間が長く、人事制度の企画から採用・研修まで幅広く担当。
男女共同参画・WLBの分野では社内での中心的な役割を担い、社員の意識調査や他社事例などを研究し実践。
2005年度、当時まだ珍しかった男性の育児休業を取得。また労組専従も経験。管理職として多くの短時間勤務の女性を部下に持ち、マネジメント経験も豊富。
2011年1月から現職。政府の審議会委員に数多く任命され、働き方改革に関する講演を官公庁、企業、労組等で多数実施。

た。しかし、コロナ禍で飲み会が激減したのを機に、参加は自由になり、行ったとしても1次会で帰る人も増えていきます。面倒くさい人付き合いが敬遠されて、自分が好きな仲間とだけ飲みに行くようになっていくのかもしれない。

「コロナ禍でテレワークを経験したことで、会社と自分の関係を考え直す人も増えました。「会社に自分を捧げます」という人が減り、就活でフルリモートを条件にする人もいるほど。こうした価値観の変化が、OBNの牙城を崩す一つのきっかけになっています。」



誰もが働きやすい仕組みづくりのヒント 10 か条

(出典元：NPO 法人 J-Win)

第1条 【行動(成功体験)の押し付け】

成功体験は押し付けず、あなたの宝物として心にしまっておきましょう

第2条 【上司への付度】

上司の顔色より、部下の仕事の成果を見ましょう

第3条 【男女間の不平等】

仕事の進めやすさ、振りがやすさに関係なく、平等に仕事が分担できるよう、マネジメントしましょう

第4条 【傾聴が無い】

話の腰を折らず、最後までしっかり聞きましょう

第5条 【理解不足・決めつけ】

一人ひとりの仕事に対する対価値観を尊重しましょう

第6条 【放置】

仕事の目的、背景をしっかり説明した上で、部下に仕事を任せ、伴走しましょう

第7条 【男性固有のネットワーク】

部下から誤解を招く固有のネットワークづくりはやめましょう

第8条 【男性固有のイベント】

物事はオープンな場所で決めましょう
(喫煙所、飲み会、ゴルフ場等では決めない)

第9条 【生活リズムの男女差】

- 歩行や食事のスピードに配慮しましょう
- 冷房のかけすぎに注意しましょう

第10条 【合間(ランチタイム、移動時)の使い方】

歩行中もランチタイムも(部下との)貴重なコミュニケーションの機会と捉えましょう



男女で異なるライフイベントに関する就労環境

OBN 世代
のケース

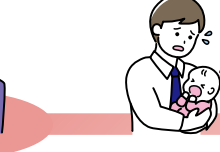


- 体調面の不安などは、女性と比較すると少ない
- 結婚・子育て等のライフイベントが仕事の支障となることも少ない



無事に会社を
卒業します

若い世代の
男性
のケース



転居を伴う
人事異動

夫婦共働きによる
子育ての不安

親の介護の
疲弊

20代

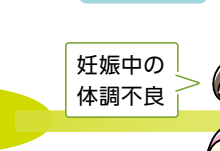
30代

40代

50代

60代

女性の
ケース



妊娠中の
体調不良

子育て中の仕事との
両立に対する不安

更年期の
体調変化



親の介護の
疲弊

若い世代の男性社員も仕事とライフイベントの両立に苦慮している！

© 2025 TORAY CORPORATE BUSINESS RESEARCH, INC.

OBNでは、人と違った意見を
言うってハレーションが起きることを
警戒して忖度することが多々ありま
す。自分の考えを堂々と伝える職場
だと精神的にも安定するので、そこ
は担保される組織であってほしい。
多様な意見を知ること新たな発見
やイノベーションにつながります。
誰もが発信できる環境をつくり、言
われたほうは頭ごなしに否定はせず
に、理由を説明しましょう。

自分の意見をはっきりと言う人が
増えてきているので、管理職は意識
を変えて、今まで避けてきたことに
も取り組まなくてはなりません。私
より上の世代は叱られて育ってきた
ので部下にも厳しくするべきだと考
えがちです。これもOBNの一つ
で、自分がそう育ってきたからと
いって、今はそのまま実践するとパ

多様な価値観を受け入れよう

職場の人数規模等に応じて育休取得
者を除く職場全員に、1人3千円か
ら最大10万円の一時金を給付する
という制度。同一職場で複数名が育休
を取得した場合は、その人数分だけ
給付されます。

今までは育休を取ると職場の同僚
に負担をかけて申し訳ないというネ

これからの管理職に求められるの
は部下との対話(1on1)です。管
理職はキャリアコンサルタントの資
格を取得して、カウンセラーになれ
るくらいのスキルを身につけてほし
いと思っています。もっと部下の話
を聞くことが大事で、仕事内容を一
方的に指示するだけでなく、悩みや
キャリアアップの相談相手になり、
時には聞き役に徹することも必要で
す。どうしたら仕事がやりやすくな

部下の話や悩みを聞いて、働きやすい職場をつくる

女性性の管理職が増えてくるものの、
取締役を務める女性の8割が社外取
締役で、しかも同じ人材が複数の企
業を兼務しているケースが多い。そ
れに比べて男性役員の8割は社内役
員と、実際に活躍の場を得ている女
性はまだまだ少ないのが現状です。

OBNの悪影響もあって、男性
管理職の場合、自分の立場が危う
くなると本音を言えないことがあ
ります。女性のほうが違うことは
違うと主張できる人が多い傾向に
あると感じるので、もっと女性管
理職が増えると職場風土の改善に
つながると思います。

管理職はカウンセラーに徹する

るのか、その人のことを真剣に考え
てあげてください。上司に相談でき
たということが部下の満足感にもつ
ながるでしょう。

面と向かったカウンセリングだと
本音を言ってもらえそうになけれ
ば、ランチの時間がおすす。リラッ
クスした雰囲気、貴重なコミュニ
ケーションの時間が取れます。仕事
で困っていること、他の人がいると
話づらいことを聞いてみると、お
酒が入らなくても本音を話してくれ
る場合もあるでしょう。顔を見て話
せると、すれ違いや誤解を生じるこ
とが少なくなります。テレワークで
も、週1回は対面でミーティングを
行ってみてください。困ったときに
相談しやすい体制づくりが、働きや
すい環境をつくれます。相談を持ち
掛けられたら、忙しいからといって
断らずに、少しでも時間をつくるこ
とが大事です。

育休取得をサポートする 職場応援手当の給付

育児休業を取りやすくする制度で
注目したいのが、大手企業が導入し
ている「育休職場応援手当(お祝い
金)」です。社員が育休を取る際、

ガティブな気持ちが生じましたが、
一時金がもらえることで育休が歓迎
されるといふ現象も起こっているそ
う。キャリアアップをしたいと考え
ている人にとっては、育休取得者の
仕事を請け負うことで、経験値を上
げられるほか、給与面でもメリット
があります。

ワハラになってしまいう時代。ちよつ
と叱っただけで傷ついてしまいう若者
も少なくありません。また、自分の
会社の常識が他の会社の非常識にな
るケースもあります。

OBNの影響に気づき、多様性を
理解して受け入れるには、第三の
居場所づくりをおすすめします。
会社と自宅以外で、例えば趣味の集
まりや勉強会など、
普段はつながりの
ないさまざまな人
と交流することで、
視野を広げること
ができます。

いろいろな考え方
を知り、多様な人材
活用することが組
織の成長や発展の要
になるのです。

荒川区公式 YouTube チャンネルで
株式会社東レ経営研究所 宮原淳二
さんへのインタビュー動画公開中！



イベントカレンダー

これからアクト21で開催する講座をご紹介します。お気軽にご参加ください。

講座名・講師	日時	主な対象
「子育てや介護など生活ストレスのコントロールを学ぼう」 講師：太田喜乃氏	11月29日(土) 13:30～15:00	毎日の子育てや介護、仕事との両立…。知らず知らずのうちにたまっていく生活ストレスを上手に整えるヒントを学んでみませんか。男女が共に支え合い、自分らしく生きるための工夫を一緒に考える講座です。
「共働きのためのパートナーシップ講座」 講師：高祖常子氏	12月21日(日) 13:30～15:00	仕事と家庭を両立するには、夫婦の協力と理解が欠かせません。家事、育児の分担やコミュニケーションの工夫を学び、互いに支え合うパートナーシップを育むヒントを伝えます。
「自分を守るみんなで支える防災力アップ講座」 講師：五十嵐ゆかり氏	令和8年 1月24日(土) 13:30～15:00	災害時に安心して暮らせる地域づくりには、性別や立場を問わず、誰もが力を発揮できる環境が欠かせません。家庭での備えから地域での支え合いまで、防災力を高めるヒントを学びます。
「健康のカギは良い睡眠から」 講師：両角佳子氏	令和8年 3月1日(土) 13:30～15:00 ※交流のつどい時	仕事や家事、育児や介護など多忙な毎日を送る中で「眠れない」「疲れが取れない」と感じる人は少なくありません。誰もが安心して休める環境づくりを考えながら健康のカギとなる睡眠の工夫を学びます。



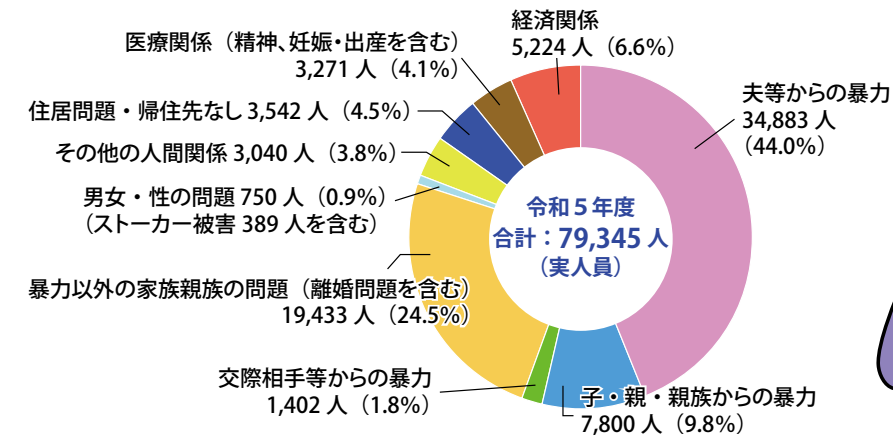
申込方法

お申し込み等、詳細については、随時区の HP をご確認ください。
お問合せ：男女平等推進センターアクト21 ☎ 03-3809-2890

データで見える男女共同参画

さまざまな困難を抱える女性たち

【全国の女性相談支援センター及び女性相談支援員が受付けた来所相談の内容】



（出典：厚生労働省女性支援室 R7年「困難な問題を抱える女性への支援について」）



全国の女性相談支援センター及び女性相談支援員による来所相談人数は毎年8万人前後。上のグラフのように令和5年度では、「夫等からの暴力」が来所相談の44%を占め、「子・親・親族」「交際相手等」も合わせると**全体の半数以上が暴力被害に関する相談**です。その他にも、女性を抱える困難はさまざまで、離婚問題、ストーカー被害、妊娠・出産、経済的貧困など、女性であるが故の問題が、社会生活を妨げていることがうかがえます。

こうした困難を抱える女性への「支援」を目的とした「**困難な問題を抱える女性への支援に関する法律**」が令和6年4月に施行されました。女性をめぐる課題は生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻

など、複雑化、多様化、複合化し、「孤独・孤立対策」という視点も含め、新たな女性支援強化が喫緊の課題とされています。新法では「女性の福祉」「人権の尊重や擁護」「男女平等」といった視点を明確に規定。国・地方公共団体に対し、困難な問題を抱える女性への支援に必要な施策を講じる責務を明記しています。荒川区では、女性の人権が尊重され、安心して、かつ自立して暮らせる社会の実現を目指し、「**困難な問題を抱える女性への支援に関する法律**」に基づく計画を策定する予定です。

荒川区男女平等推進センターでも『**こころと生き方・DVなんでも相談**』を実施していますので、気軽にご相談ください。詳しくはP8へ。

アクト21 News | 区で行った事業をご紹介します！

参加者の声



世界から見る日本の食文化がすごく理解できた。夫にも聴かせたいと思った。



研究熱心なコウケンテツさんの思いが伝わる講演でした。内容進行もよく考えられ、あっという間に時間が経ちました。久しぶりに有益な講演を拝聴したと思いました。食事づくりに疲れを感じていましたが、自分の周りにも封建的考え方がいまだに残っていたと気づきました。よい問題提起を頂きました。



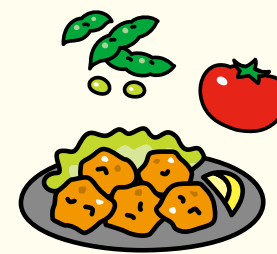
女性の気持ちに立った講演で共感することが多くありました。男性に参加してほしい講演でした。スリランカのお話から世界の家庭事情を初めて知りました。家族で聴きたい講演でした。



心に余裕がない日は、家事やごはんづくりは本当にしんどいと思っていたので、今日のお話は共感の嵐でした。



講演会でした。
がにじみ出た、楽しい
老若男女に支持されて
いるコウさんの優しい人柄
がにじみ出た、楽しい
講演会でした。



約200人を超える申し込みがあり、大盛況のうちに講演会を終えることができました。当日のサテライト会場でのライブ配信にも、多くの方が参加してくださいました。
老若男女に支持されているコウさんの優しい人柄がにじみ出た、楽しい講演会でした。

料理研究家
コウケンテツ氏講演会
台所からはじまる家族の絆を
『おいしい』よりも大切なこと

令和7年6月28日(土)実施
「男女共同参画週間講演会」

男性であることも患者様のケアに活かしたい。

～女性の多い世界で学ぶ、男性看護学生のリアル～

看護師を目指そうと思ったきっかけは姉でした。中学生の時、高熱を出して救急車を呼んだことがあり、当時、看護学科の大学生だった姉に手際よく応急処置をしてもらったのです。救急隊員への説明も適切で、「お姉ちゃんカッコイイ」と憧れたことが決め手になりました。

今、看護学科で学ぶ中、病気を治すということだけでなく、患者様と深く関わりを持ち、人を診てケアする看護師の仕事に魅力を感じています。看護実習で患者様とのコミュニケーションを取りながらケアするのは楽しいです。男性の看護実習生は珍しく、患者様に医学生と間違われることも多いのですが、その分、覚えてもらえやすいので、それを強みとして

東京都立大学健康福祉学部
看護学科3年 後藤 匡哉 さん



コミュニケーションに活かしたいと思っています。患者様を最優先に考え、関わりを大切にする看護師になりたいと日々学びを続けています。

昔は看護師は女性の職業だとされてきましたが、男性の患者様で女性看護師に身体を見られたくないと思っている方もいます。また、男性特有の病気の場合は、同性のほうが理解が深まるなど、男性看護師だからこそ話せること、配慮できることもあります。

将来は認定看護師や専門看護師の資格を取得して、看護師を指導できる立場になるのが目標です。そして、もっと男性看護師が増えることが、患者様のためにもなると考えています。

家族や友人には話づらいこと、
誰かに聞いてほしいことを
専門のカウンセラーに話してみませんか？

\\ こんなことで、悩んでいませんか？ //

DVのこと

- ・父親が母親に暴力をふるっているかもしれない
- ・いつも、パートナーの顔をうかがってしまう
- ・何を言っても長時間無視されることがある
- ・生活費を渡してもらえない

自分のこと

- ・最近、気持ちが落ち込みぎみ
- ・今後の生活を考えると不安
- ・自分の気持ちを伝えることが苦手で、誤解されてしまう

周囲の人のこと

- ・ママ友とうまく付き合えない
- ・ご近所さんとの付き合い方がわからない
- ・会社の上司・同僚に嫌がらせをされている

LGBT専門相談（原則毎月第4火曜日、16時～18時）の予約も受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

秘密は厳守
されます



どなたでも利用できます。
お気軽にお電話ください

アクト21

（荒川区立男女平等推進センター）

『ころと生き方・DVなんでも相談』

☎03-3809-2890 [事前予約制]

※相談は「無料」です。

面接相談と電話相談、ビデオ電話相談があります。

※男性は電話相談のみとなります。

相談日 水曜日・金曜日・土曜日 ※時間は週によって違います

各月	水曜日	金曜日	土曜日
第1	17時～20時	10時～16時	—
第2	10時～16時	14時半～20時	10時～15時
第3	14時半～20時	14時半～20時	—
第4	10時～16時	10時～16時	—

男女共同参画社会の実現を考える

アクト21

INFORMATION

荒川区立男女平等推進センター

〒116-0012 東京都荒川区東尾久5-9-3

☎3809-2890 Fax 3809-2891

●開館時間／9:00～22:00

●休館日／12月29日～1月3日および保守点検日など



Access

●都電荒川線、日暮里・舎人ライナー
「熊野前」駅より徒歩約3分

●都バス「熊野前」停留所より徒歩約1分